

## 中学校の部 優秀賞

四国防災八十八話 第51話 救ったのは人のつながり

自分だけではない

御荘中学校 3年 あさの 浅野 まお 希央

私は、学級の友だちやそれ以外の防災小説を読んで感じたことがあります。それは、被災者は自分だけではない、ということです。実際に被災すると、つらいことがたくさんあって自分が一番、になると思います。しかし、その場にいる人たちも自分と同じように苦しんでいるということを忘れずに行動しなければ、と感じました。

例えば避難の時。パニックになっていると我が先にと高台などに避難したくなります。訓練のようにみんなが静かに整列して避難するとは考えられません。だからこそ、防災小説で書いたように、率先して声を掛けたり、困っている人を助けるために協力したりしながら安全に命を守る行動をとりながら避難したいです。

他には、避難所での生活です。家とは違う場所で数日、もしかすると長期間過ごすことになります。そのため、食事やトイレ、支援物資など様々なことで制限ができます。「全国防災小説オンライン交流会」でも、避難所での食事を多く手に入れるためにルールを守らない人、どれだけ待っても食事にありつけない人がいるなどの状況を書いている作品がありました。「被災者は自分だけでない」の気持ちを忘れないことが絶対に必要であると強く感じました。

私は今被災していません。災害を想像し対応を考えることしかできません。そして、今考えているように動けるかも分かりません。しかし、「被災者は自分だけではない」を念頭に、防災小説でみんなが書いたように、それぞれができることを実行し、互いに協力し、励まし合い、辛い局面を乗り越えていけると信じて、これからも防災学習に取り組みます。